



憲法 26 条 ひとしく教育を受ける権利

代表 大森 正子

今年2月頃からじわじわコロナ感染が広がり、大きなイベントは次々と中止。公共の施設もいつ使用停止となるか不安がよぎる中、細心の注意を払い2月29日「私も先生！」～デンマーク～を実施しました。

今回「私も先生！」でお話いただいたお二人は、2019年デンマークの研修旅行に参加した方々です。受け入れ先の国民学校は参加者の希望で訪問場所(人)を調整してくれます。LGBT協会、補助器具センター、難民サポートセンター、エコビレッジ、家庭医や児童・青少年分野のSWさんの話等々、新鮮で興味深い話ばかりでした。

実は私も2018年、社会福祉士関係者でデンマークの研修に参加し、地域行政(健康・リハビリ課)、ガン協会、ボランティアセンター、ジョブセンター、小学校等を訪れました。特に小学校では、教科を教える先生の他にペタゴ(資格名)という先生が付き、子ども達のパーソナリティ形成に大きな役割を果たしていることに感動!

(※ペタゴを養成する大学あり)

話変わって、緊急事態宣言の渦中「行き詰まる苦学生」の新聞記事には涙しました。親の援助が受けられない学生、アルバイト先の飲食店の休業で1日1食で済ませるKさん。この春児童養護施設を巣立ち、夢を叶えるために進学した専門学校も「このまま夢を諦めなければいけないのか。不安で不安でしょうがない」と。デンマークでは考えられないような話。「ひとしく教育を受ける権利」、日本ではどうてい叶わない権利なのか・・・。

国民第一・個人主義の国デンマーク

第14回先生 武田 嘉郎 氏

「私も先生」の当日、用意された前の方の席に座っていると会場に参加者が思いのほか次々に来場して席を満たしていき「デンマークって関心が高いんだなア」と独り言ちていました。日本が消費税を10%にしたばかりのこともあり、関心が高いのはいわゆる高負担高福祉の社会制度にもかかわらず幸福度世界一にあるのではと感じられました。



プレゼンテーションが終わると次々に質問の手が挙がり、それを裏付けました。さらには終了後、プレゼンターの席まで来て、「どうやっていくのですか」と今にもデンマークに行きそうな方までいて、かの社会制度がかくも魅力があるんだということをつくづく知らされました。

当日の話しを少し補いたと思います。それはデンマークでは労働者とその雇用主に財源負担を求める社会保険制度ではなく、むしろ労働市場から外れてしまうようないわば弱者や農民をも念頭に租税で賄う社会保障制度よって全国民を対象にしているということです。その結果、医療費や教育費は無料、失業時の手当でも失業者の80%が満足という額を実現、そのおかげで平均して4回転職して自分に合った職業を探すということも通常の事としてあるのです。この国民全体を対象とし税金によって支えられる社会保障制度を原則としているのがデンマークという福祉国家の基礎といえます。



デンマークの特徴に個人主義の国ということが挙げられます。個人主義は自分さえよければいいと受け取られがちです。現に小学校などでは個人主義はいけません。みんなのこと考えましよう口を酸っぱく叩き込まれてきました。そうではなく自分の意見は主張するが、他の意見との一致点を探し、妥協点を見つける教育を受けて育ちます。その結果、例えばジェンダーは自分で決めるのです。医師の診断が必要な日本とは大違いです。

さて、当日声が小さく活舌も悪く参加者の皆さんにはご迷惑をおかけしたことを最後にお詫びします。大学の講師をしている時は言われたことがないので老化のせいとお許しください。

(清瀬・東久留米社会福祉会)

COFUNは、Community FUREAI Net の短縮形で『こふね』と呼びます。『私も先生!』プロジェクトで報告された資料は、COFUNのホームページに全て掲載しておりますので、ご覧になってください。

私も先生を終えて

第14回先生 木村 葉子 氏

デンマークの研修は、日本という井の中の蛙状態だった私にとって、色々な方向からのものの見方ができるようになったとても貴重な経験でした。

最初大森さんから依頼を受けた時は、自分が研修で希望したテーマについて話をするイメージをし、30～40分も人の前で話をできるほどの内容のものが作れるものなのか、とても不安でした。

だけど、デンマークのことで何が印象に残っているか、と思いついた時にまず自分の希望したテーマより何より町の人たちの自尊心に満ちた笑顔の雰囲気が一番大きかったです。日本のようにちょっと目立ったことをすると文句が来る、とかお客様は神様です、という空気が無い。幸せな笑みを浮かべ、あなたはどうしたいの？という感じで接してくれている、その空気をみなさんに伝えたい、と思いました。



日本の規模や経済の流れで北欧の福祉制度を採り入れるのは不可能という現地講師の言葉も印象的でしたが、その中で今の日本のまずどこを変えたら、この息苦しくて、今の自分に使う時間もお金もないような状態を変えることができるかを自分なりに考えて話してみたいと思い、研修前、研修中に学んだことを振り返りました。そこで出た結論は「つねに自分がどうしたいのか、どう考えているのかを表明する、認められる、それが普通である教育」の差でした。これを変えるためには学歴第一の新卒一括採用制度を変えないことには貴重な教育の内容が変わらない、と強く感じます。

専門的に学ぶ目的も無い人までが就職のために借金を背負って大学に行く、入試のための勉強で6年以上学んでも会話できない英語の授業、変わらない負の連鎖。

デンマークで漠然と感じていた自尊心について振り返り、自分なりにそうした形で未来を変える可能性について提案することができました。私も先生ならぬ、私も生徒の大きな機会をいただけたことに強く感謝しています。

(おひさまネットワーク)

木村氏、練馬区オレンジカフェでも講演

2/29 COFUNE 主催の「私も先生!」、デンマークの話で非常に関心があったのに参加できなかったのは是非話を聴かせてほしいと練馬区光が丘で活動している市民団体「オレンジカフェアリス」から依頼がありました。木村さんにこの話を持っていったところ快く引き受けて下さり、11/1 再度講演会が実施されました。場所はNPO 法人むすび(介護事業所)のむすびホール。「オレンジカフェ」は、このむすびホールを使わせてもらい毎週月曜日地域に住む高齢者のためにカフェを開催しています。その中で時折このような講演会を企画しているとのこと。

アリスのメンバーとカフェに参加された方々には、デンマークの寝たきりを作らないという介護方法が心に響いたようです。また木村さんが熱く語った教育の話には「素晴らしい」との声もあがりました。

カフェでは、ボランティアで毎週バイオリンの演奏を下さる方がおり、最後にあかとんぼと一緒に歌った後、素晴らしいクラシックの演奏「ビバルディのバイオリンソナタ」を披露して下さいました。



2020年度「私も先生!」は中止します

COFUNEの活動は、「私も先生!」から始まりました。多い年で年3回行ったこともあります。その後、サロンの開催(コロナで休会后10月から再開)や月刊情報紙「ふれあいネットMATSUYAMA」の発行(コロナで5月から休刊)を始めたことで、「私も先生!」は年1回の開催となってしまいました。それも今年はコロナの影響で残念ながら中止とさせていただきます。

皆様、コロナ感染はもちろん、健康に留意し、また「私も先生!」でお会いしましょう。

事務局：コミュニティふれあいネット(COFUNE) 大森正子
〒204-0021 清瀬市元町1-8-20 エスタ清瀬 403
Tel: 090-6009-4474 Mail: cofune_kiyose@yahoo.co.jp

URL: <https://cofune.net>

会員募集
COFUNE活動に賛同して
いただける方、連絡を!
会費無料

